

愛隣館研修センターニュース

〒612-8141 京都市伏見区向島二ノ丸町 151 Tel:075-621-3849 Fax:075-621-1579
E-mail:airinday@sunny.ocn.ne.jp http://www.airinkan.net 振替:01020-5-39321
編集発行所:社会福祉法人イエス団 愛隣館研修センター 発行責任者:平田 義

92号

剣をとる者剣にて亡ぶ(聖書)基地を持つ国は基地にて亡ぶ(歴史)

これは、米軍占領下の沖縄伊江島で、徹底した非暴力で米軍と闘ってこられた阿波根昌鴻さんの言葉です。この言葉から考えれば、高江のヘリパッド建設、辺野古新基地建設、京丹後Xバンドレーダー建設など、日本も確実に亡びの道へと突き進んでいると言えるのではないのでしょうか。基地のない平和な社会を築いていくために、今号では、京丹後市丹後町宇川地区に新たに建設された米軍通信施設について、毎日新聞記者の塩田敏夫さんに寄稿していただきました。平和の実現のために是非、ご一読ください。

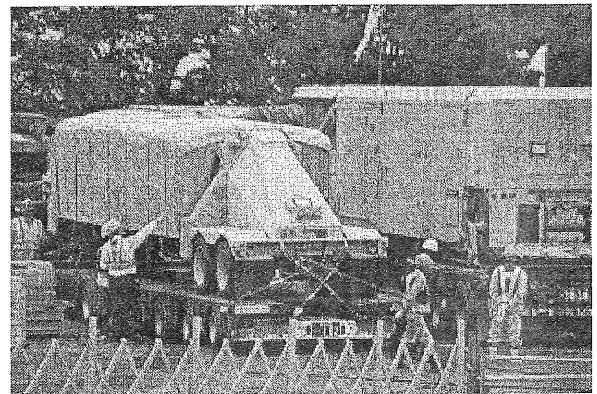
近畿初の米軍基地となる米軍経ヶ岬通信所の建設が京都府京丹後市丹後町で進んでいます。映画「新・喜びも悲しみも幾年月」の舞台となった経ヶ岬灯台のそばにあり、風光明媚な日本海に面しています。通信所は住民の信仰を集める「穴文殊」の隣にあり、住民からは「貴重な岩盤を工事で削ってならない」と強い批判の声が出ています。

通信所は高性能早期警戒レーダー「Xバンドレーダー」を運用するもので、12月末に本格運用が始まる予定です。昨年2月、安倍晋三首相とオバマ米大統領の日米首脳会談で設置が決まりました。Xバンドレーダーの国内設置は2006年の青森県つがる市の航空自衛隊車力分屯基地に続き、2例目となります。

Xバンドレーダーとはそもそもどんなものでしょうか。米軍や防衛省は「軍事機密」として性能などの情報を公開していませんが、電磁波を高出力で発射し、1000*。先の野球のボールの動きもとらえるといわれています。トレーラーでけん引する移動式で、全長13*、高さ3*。10月21日未明、石川県小松市の航空自衛隊小松基地を経由して陸路で経ヶ岬通信所に搬入されました。搬入の事前通知は住民には全くありませんでした。安倍首相の私的懇談会「安全保障の法的基盤の再構築に関する懇談会」は、集团的自衛権行使の事例として「米国向け弾道ミサイルの迎撃」も挙げており、Xバンドレーダーはその最前線になるとみられます。

日米首脳会談から今日までの経過を振り返ってみましょう。防衛省の金沢博範事務次官(当

時)は首脳会談を受けて2月26日、京丹後市を訪れ、中山泰市長に配備方針を説明しました。北朝鮮がミサイル開発や核実験を繰り返していることを理由に、早期に設置したいとの考えを表明しました。米軍基地配備による「攻撃されるリスク」について、「レーダーは防御的で、攻撃の対象となることは考えられない」と答えました。中山市長は受け入れの条件として「住民の安全・安心が大前提」と表明しましたが、住民にとってはまさに「寝耳に水」の出来事でした。

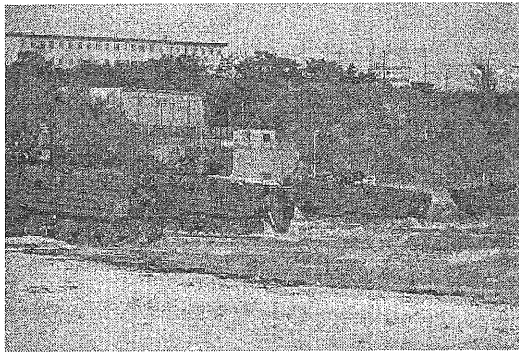


米軍経ヶ岬通信所に搬入されたXバンドレーダー(左の車両)=京都府京丹後市丹後町で2014年10月21日撮影

通信所がある地域は「宇川地区」と呼ばれ、人口は1800人。農業と漁業が中心で、高齢化と過疎が進んでいます。子や孫に豊かな自然を残していこうと、女性たちが「宇川加工所」を作り、農産物や魚介類を加工して特産品として売り出し始めたばかりです。また、漁業と観光の連携を目指して「とび丸タクシー」の運航も始まっており、米軍基地がやってくることに不安と戸惑いの声が上がりました。住民たちは「米軍基地建設を憂う宇川有志の会(三野みつる代表)を結成しました。

これから日本は、どうなっていくのでしょうか。年明けには集団的自衛権行使容認へと向かい、辺野古には米軍新基地を造るといふ。集団的自衛権容認となれば中国への抑止力は強くなるだろうし、辺野古新基地はその拠点として重要なものとなると思います。ましてやアメリカが戦争を始めれば辺野古新基地を拠点に、戦闘機が、戦艦が、オスプレイが、戦場へと向かっていくのです。となれば、辺野古は爆撃目標となるのです。そうなれば、犠牲となるのは当然、辺野古周辺に住んでいる沖縄県民です。これまでの米軍基地があるがゆえの問題の上にさらに、この先200年という長い年月、そのような危険にさらされるのです。日本の平和のために。

このようなことが、地元住民である沖縄県民の意思に反して、強引に進められていいのでしょうか。もっと日本国民全体で考えていかなければならないと思います。



辺野古沖からキャンプシュワブ内に戻って来た米軍海兵隊の水陸両用車。珊瑚もおかまいなしに演習を行っている。2014年10月20日辺野古浜にて撮影

沖縄の基地問題は他人事ではありません。京都府京丹後市にある経ヶ岬に、米軍の施設が造られようとしています。いわゆるXバンドレーダーで

す。Xバンドレーダーは仮想敵国(中国や北朝鮮など)からのミサイルを早期にキャッチし、迎撃ミサイルを発射するための早期警戒レーダーです。このレーダーは強力で、電磁波による人体や野生動植物、周辺を飛行する民間航空機への影響が心配されます。なにより、経ヶ岬周辺地域が軍事報復を真っ先に受ける危険性にさらされます。そしてこの基地建設計画、辺野古と同じように地元住民の意思を無視して強引に進めようとしています。

辺野古移設反対の方々、当たり前権利を守るために、自分の生活を犠牲にして日々、辺野古・キャンプ・シュワブゲート前で戦っておられます。高江へリパッド建設についても同様です。辺野古埋め立てはさせない、新基地建設反対と、文字通り体を張って訴え続けています。わたしたち京都に住む住人として、また日本国民として、個人個人が知り、考え、行動することが大事だと思います。個人でできる事は小さくても、活動をとおしてつながり、連帯していくことこそが、当たり前権利を守ることにつながると思います。

沖縄県知事選挙が終わって数日、投票率65%、反対派の翁長さんの得票数は過半数越え、という民意が表れた選挙結果にもかかわらず、辺野古沖では再び埋め立ての為の作業を再開しているようです。これまで犠牲を払い続けてきた沖縄に、県民の意思を無視し、このうえ更なる犠牲を押し付け、その犠牲の上に平和を成り立たせようというのです。憲法9条で平和を謳っている日本として、少数派を切り捨て、その犠牲の上に成り立つ平和を認めてはいけぬのではないのでしょうか。(安保剛)



詩人柏木正行さん(1945-2006)の

魂に触れる㊤

「未来」

人間には
未来があるのです
今日は悲しくても
明日は楽しくなる
そう信じているのです
だから
生きていられるのです

2014年7.8.9.10.11月の活動

- 7/13.17.27 喀痰吸引第3号研修
- 7/31 『遊隣』海企画
- 8/04-05 『遊隣』キャンプ同志社リトリートセンター
- 8/07-08 『遊隣』キャンプ同志社リトリートセンター
- 8/21 『遊隣』クッキング企画
- 9/08-12 BBQ Week
- 9/17 法人京都ブロック学習会
「わたしたちは、平和をつくりだす」平良嘉男さん
- 10/16-17 デイー泊旅行 in 六甲&淡路
- 10/26 第8回向島秋の祭典
地域コミュニティの活性化を目指して地域の学校や大学、向島に関わりのある団体が参加しました。
- 10/19-23 居連協有志 沖縄平和研修
- 11/5-6 デイケア・シサム泊旅行 in 六甲&淡路
- 11/8 JBF 京都ブロック交流会
- 11/14-17 SIEA 濟州島セミナー

■ ■ ■ MJ(向島)便り

■ 11/5-11/8 戦争・原爆写真展

「語り継ぐ～平和・いのちの標～」
 “集团的自衛権など不安な方向に舵を取ろうとしている今の日本に警鐘を鳴らしたい！戦争の歴史から真実を学び、これからの平和・いのちを考える機会に”との思いを根底に開催した。東日本大震災により福島県から向島に避難している笑顔・つながろう会や地域住民と共に昨年引き続き取り組んだ。4日間で約200人の来場者があり、11/8の戦争体験者の語り部会では、戦争を体験していない世代にも戦争の残酷さや命の尊さがひしひしと伝わった。(佐藤雅裕)

☆☆☆☆☆☆☆☆ 参加者より
 MJで開かれた会に愛隣デイ・シサムのメンバー数人と一緒に参加しました。

広島で被爆された方のお話の中で『戦争は年寄りこども(もちろん障がい者)にも容赦ない、私たちは当時戦争の状況もラジオからの発表で勝っているとしか知らされていなかったし、原子爆弾という存在も知らなかった。知らないということが一番の不幸につながる』という言葉が印象的でした。

広島、長崎での被ばくを経験していながら戦後70年近くたった今、日本は核の平和的利用という名目で国内にたくさんの原子力発電所が知らないうちにたくさん作られている。3・11の福島の被害状況を見ても原発は私たちに不幸な結果をもたらしている。『今のこどもたちはおじいちゃんおばあちゃんが戦争体験していない世代になっている。私たちが元気なうちは少しでも若い人たちに伝えていきたい。』と話してくださったように、20年30年後には確実にこのような“生”のお話を聴くことはできなくなるのだなと改めて気づかされました。

この貴重なお話を今日一緒に話を聴いたメンバーと次世代に語り継いでいくことを考えたいと思いました。(黛共子)

■ ■ ■ あいりんコラム

先日某テレビ番組である歯科医が取り上げられていた。歯医者さんと聞くと、誰もがあまり良いイメージがないのではないかと嫌だけど歯が痛むから仕方なく歯医者に行く。とことん痛くなってから行く。そんな感じでしょうか。しかし、ずっとその繰り返しです。つまり、歯が痛くなる→歯医者に行く(歯を削って貰う)→また歯が痛くなる→歯医者に行く……。

この歯科医はそのあり方に疑問を持ちます。まず、患者自身の意識を変えないといけません。そのため、この歯科医は基本的に余程の痛みがない限り、すぐに治療をしません。まず、全ての歯のレントゲン、歯茎の状態、さらに有料の唾液検査等をおこない、患者自身が自分の歯を知り、意識してもらうことに徹底的に時間をかけます。

患者にとっては、痛みがあり、多くの人が忙しい中で、その合間で通院に来ているから一刻も早く治療をして欲しいと望む患者がほとんどだと思います。それでも、その必要性を強く訴えます。

「痛くなったら行く歯医者ではなく、痛くならないために行く歯医者であること。目先の治療、つまり患者の要求に応えたと思いつつ、実は患者の将来にとっては全く利益にならないことを提供している。自分の口の中に何本詰め物があって、いつ詰めたか誰が詰めたかわからない、お任せの診療をされて情報が開鎖されている。歯科治療というのは、今その時食べられればいいというのではなく、本当に長く自分の歯を持たせることが問題なので、その患者さんの人生を診ているのである。」

この話は、まさしく我々自身の相談支援において、全く同じであると思う。ただ、家族や本人の言われるがままに、その要求を満たすサービスを調整する。十分なアセスメントもなしに、言われたこと(痛み)だけに応えてしまう。そんな単なるサービス調整屋であってはならない。その人自身が、自分のことを知り、自分自身の価値を再確認できるようなエンパワメントの視点の大切さ。その瞬間だけでなく、将来を見据え連続したその人の人生に寄り添う仕事であること。

僕自身が中途半端な人間であるが故に、より一層強くこれからも意識していかなければならないと思う。(太田正人)

2014年 クリスマス献金のお願い

皆様方のご理解とご支援によって支えられ、活動を続けられますこと、心より感謝します。今年度もクリスマス献金にご協力頂きますよう、お願いを申し上げます。

《クリスマス献金・要項》

目的：障がい児・者とその家族とが地域で安心して暮らすことができる為に愛隣館研修センターの今後の活動を支援する

目標金額：3,000,000円
 郵便振替：01020-5-39321
 口座名：社会福祉法人イエス団愛隣館研修センター

★お知らせ★

▽愛隣館研修センターは、12/28-1/4まで休館日とさせていただきます。

★編集後記★

▽92号のご意見感想お聴かせ下さい。(さ)
 ▼沖縄知事選が終わった▼辺野古基地建設阻止を訴えた翁長さんが勝利した▼しかし、政府は基地建設と知事選の結果は別物で、建設計画は粛々と進めると発言している▼開いた口がふさがらない▼民主主義とは一体何なのか▼こうなれば、衆議院選挙で今の政権の歩みに強烈なNO!の意思を示すしかない(ひ)